

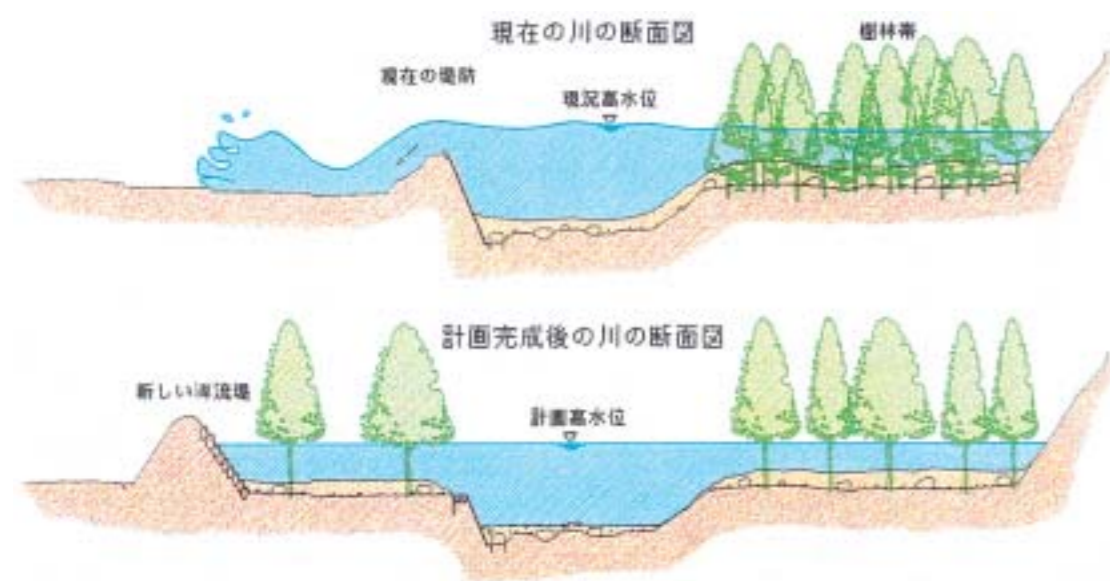
樹林帯諸元

平湯川砂防樹林帯は、模型実験を繰り返し、それぞれの諸元を決定しました。

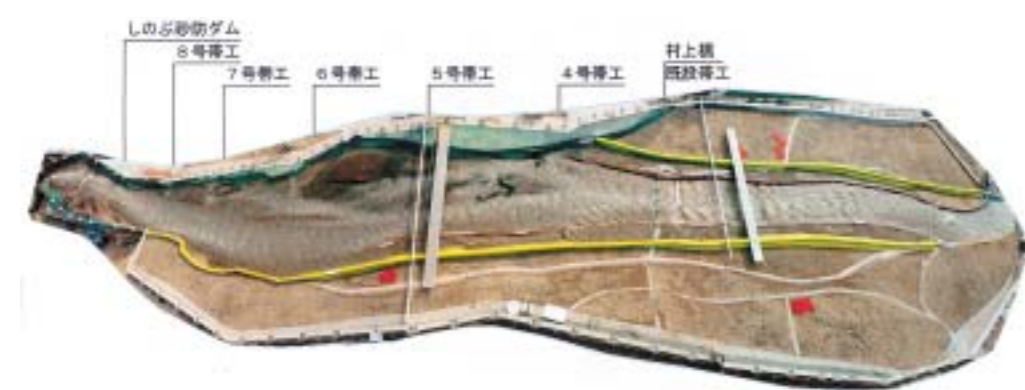
項目	諸元	
計画延長	L = 1.7km	
流域面積	A = 59.0km ²	
計画流量	Q = 770m ³ /s (100年に1回の洪水)	
計画河幅	B = 83.2m以上	
計画勾配	現況勾配とする。	
計画施設	導流堤	2034m
	床固工	1基
	帯工	8基
	樹林帯保全施設	1式



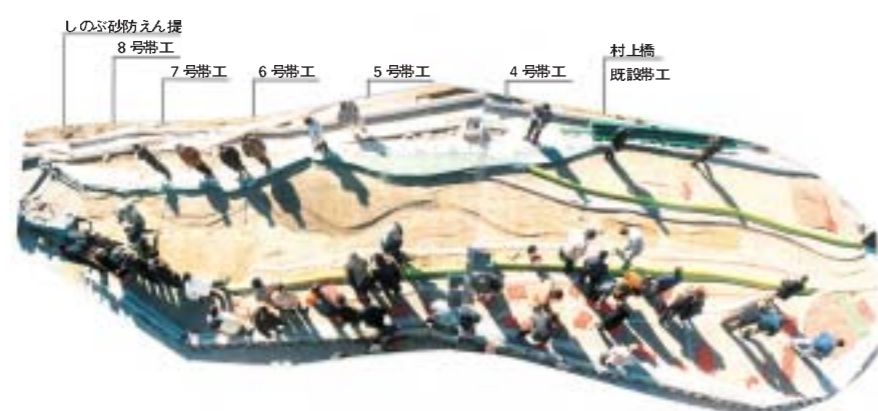
現在の樹林帯の様子



模型実験の様子



計画流量時 (770m³/s) には、河幅全体に広がって流れ、樹林帯が有効に機能している様子がわかります。



樹林帯の模型実験には、学識経験者による砂防水理研究委員会や、地元関係者による水理模型実験検討会をつくり、これらの委員の方々の意見を交えて、基本的な諸元や施設の配置を決定しました。

平湯川に生息する主な生物

●カジカガエル

本州以南の比較的川幅が広く開けた溪流に住み、体長は雄が4cm程度、雌が5~7cm程度と差が大きい。繁殖期の5~8月の河原で、雄は夕暮れからカエルはなれた美しい鳴き声で鳴く。



●ヤマセミ

山地の溪流に留鳥として生息し、水辺の横枝、岩等にとまって魚を狙い急降下して魚をとる。



●ツメレンゲ

山の乾いた岩上や尾根の上などに生える多年草。



●ニッコウイワナ



●ヤマメ



自動車
 ■東京まで……約5時間20分
 ■松本まで……約2時間
 ■富山まで……約2時間20分
 ■高山まで……約1時間20分

みなさんのご意見やご質問をどしどしお寄せ下さい。
<http://www.hrr.mlit.go.jp/jintsu> <mailto:jintuu@hrr.mlit.go.jp>

国土交通省 北陸地方整備局

神通川水系砂防事務所

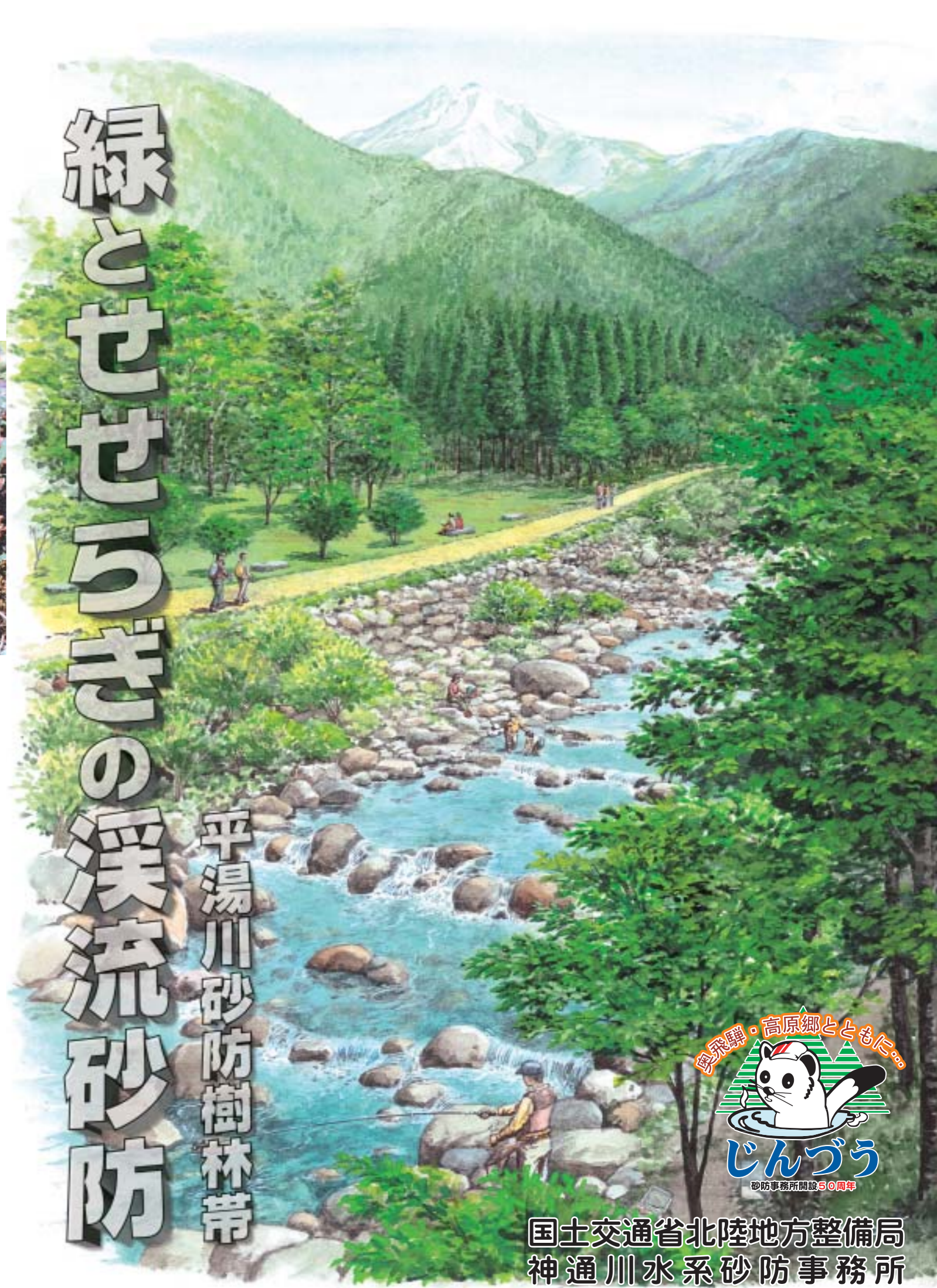
〒506-1121 岐阜県飛騨市神岡町殿1020-4
 TEL 0578-82-1220 FAX 0578-82-2461

栃尾出張所

〒506-1423 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷栃尾930
 TEL 0578-89-2052 FAX 0578-89-3553

奥飛騨さぼろ塾

〒506-1422 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷中尾2-34
 TEL 0578-89-2133



国土交通省北陸地方整備局
 神通川水系砂防事務所



平湯川流域

平湯川の流域は、活火山焼岳などにより火山性のもろくて弱い地質のため崩れが多く、大雨の時には大量の土砂が平湯川の本川や、高原川に流れ出ます。このため、平湯川の下流部では河床や流路の変化が激しく、大洪水時には周辺地区に非常に大きな被害をもたらしてきました。

平湯川の下流部は、川の中に中洲、寄洲ができ、そこに多量の樹木が生育しています。また、発電用の取水などが無いので、常に水量の多い流れがあることから、良好な景観と生物が生息しやすい環境になっています。

一方、安房トンネルが開通して、奥飛騨温泉郷の観光客は年間約200万人に増大し、周辺の栃尾、新平湯の各温泉の客も大きく増加しました。さらに国道471号線の交通量も急激に増えて、保全対象の安全確保が益々高まってきました。

平成10年に完成したたから流路工は、地域住民や観光客に親水空間として受け入れられ、盛んに利用されています。しかし、近年の自然環境や景観への関心から、自然や変化の少ない人工的な流路整備との意見があり、計画の検討にあたっては地元住民から「自然を生かし自然と一体となった砂防施設をつくってほしい。」という強い要望があります。

このようなことから、自然を生かし利用する施設として、「平湯川砂防樹林帯」を計画しました。

◆緑と花の広場イメージ図

緑と花にまつまれた安らぎ空間をイメージしています。



たから流路工

昭和33年7月災害 村上橋流失



大正14年4月噴火



昭和37年6月噴火



◆野鳥広場のイメージ図

池とヨシ類によるビオトープ、野鳥観察広場として整備します。



◆せせらぎ広場のイメージ図

樹林帯の中の活用として、ホテルのすめる池やせせらぎ、流木止を利用したパーゴラや樹木の植栽を計画しています。



平湯川砂防樹林帯

砂防樹林帯は、川の中にある樹木の力により、洪水の時土砂が流されないように、また上流から流れてきた土砂を止めることを目的として計画します。

平湯川も、この良好な自然の木々をそのまま樹林帯として取り込み、現在の自然をできるだけ変えないで、上流の「しのぶ砂防えん堤」と一体となった、自然環境を生かした砂防施設として整備するものです。

また、大洪水のときには土砂も堆積して、断面図(次ページ参照)のように、現在の堤防ではあふれてしまいます。そこで、現在の堤防の背後に新しく導流堤を建設し、河幅を広げます。



高水敷の利用

導流堤の建設により、新たな高水敷が生まれます。この高水敷を、地域住民や観光客にも有効に利用していただくことを目的として、地域住民による計画検討会を開催し、意見や提案、要望を受けました。これを基に、これらのイメージ図を作成し、計画に取り込んでいます。

しのぶ砂防えん堤から幸橋まで、ぐるりと一周約3.5kmの1時間強の散歩コースを含め、野鳥広場、緑と花の広場、せせらぎ広場(いずれも仮称)の3つの拠点地区を整備します。今後も地元住民等の意見を聞きながら、事業を進めて行きます。